

「あったかいDX」推進中

近ごろDX（デジタル・トランスフォーメーション）という言葉をよく目にする。2004年にスウェーデンのウメオ大教授、ストルターマン氏が発表した「ICT（情報通信技術）の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念だ。

DXというとビジネスシーンの印象が強いが、実は日常生活にもかなり浸透している。日本ではフリーマーケットをスマートフォンで実現したメルカリや、家庭教師事業からスタートし、現在は無料の映像授業サービスを展開するトライがその一例だ。また海外発の企業では、インターネット書店として創業し、格段の進化を遂げたAmazonをフル活用している人も多いのではないだろうか。

県では今年4月、デジタル社会推進局を設けて全国初の常勤の民間出身CDO（最高デジタル責任者）を任命。「あったかいDX」を推進中だ。その一環として個別課題をDXで解決し、暮らしやすい社会を作るアイデアをWeb上の「みえDXアイデアボックス」で8月末まで募集している。

現在100件超のアイデアが掲載中で、自らアイデアを投稿できるほか、他の投稿の閲覧や賛否投票、意見投稿もできる。ICTが得意な人もそうでない人も、こうなればより便利になるのではという思いを投稿し、生活の利便性向上を応援してはいかがだろうか。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 安岡 優）

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2021年8月23日